



しいなひろみ 楽しいな 通信

予算審査特別委員会健康福祉分科会のご報告（令和2年3月10日）要約

予算審査特別委員会で次年度（令和2年度）の当初予算を審査しました。

1. 企画総務委員会 2. 都市建設委員会 3. 区民環境委員会 4. 文教児童委員会

5. 健康福祉委員会 5つの常任委員会があり46名の議員はそれぞれの委員会に1年間所属します。

あらかじめ配布されている予算書や予算書の概要などを精読し疑問点を洗い出し、それぞれの担当部署へ「資料要求」します。それらの資料を基に更に吟味し備えます。当日の流れは質問と答弁を含めそれぞれの議員（委員）20分の持ち時間を二巡し余った時間を質問希望の議員で割り振りし審査しました。

しいな質問 1 新型コロナウイルスの影響による介護事業所への区からの取り組みについて施設も面会制限があり家族のみならず、訪問リハビリ等もサービス休止となっている。又、デイサービスも利用を見合わせている利用者が沢山いる。機能訓練を継続しないと高齢者は機能低下が著しく歩けなくなったり寝たきりになり、リスクもあがる。又、介護事業所はマスクや消毒液等が不足していたり、学校が休みとなり勤務を減らしたりし、ヘルパーさんの確保に苦慮している。各事業者が「今、何に困ってるか」積極的に働きかけて全体のヒアリングを実施し早急な対策を打ち出してほしい。

答弁 国の動き、介護保険全体の動きとしてみていくという形になる。区として具体的に何々するかは難しいが機会を捉え介護事業所の課題をアンケート等で集約する（3/13にメール・FAXで実施していると後日報告あり）

しいな質問 2 昭和50年から行われている任意事業である高齢者電話相談センターに471万円の予算計上されているが実態について。実施要綱には専門的なキャリアを要する人が電話をかけ安否確認や専門的な相談に応じるとあるが実態は。又、似たようなサービスを地域包括支援センターでも実施しているのではないかと。

答弁 高齢者の福祉サービスの充実であり高齢者の見守り活動の充実の一環として実施。定例的に週1回、2回ということで高齢者の方に電話をかけて安否確認をしている。3台の電話で2名ずつで対応。資格等は不要、安否確認の中で専門的相談が生じれば、おとしより保健福祉センターの専門職が、その内容によって対応する。当初予算額471万円の内訳は、シルバー人材センターへの委託料（コールセンター職員）419万5千円と電話料の通信費51万5千円あわせて計471万円。地域包括支援センターで同様の取り扱いが全くないとは理解していないが個別支援の中での安否確認で連絡を取り合っているケースはある。

しいな質問 3 区内には様々な介護事業所もあるのに特例居宅介護サービス費の予算が2,223万6千円、特例居宅介護サービス計画給付費の予算が2,12万2千円とあるがその必要性についての見解は。やはり基準に該当する介護保険での一般的なサービスをご利用していただくように、ぜひご指導してほしい。

答弁 実績としてその利用者が、そこが使い勝手がという形で実績があった。そのまま居宅基準該当サービスとして認定。認めている限りはその部分も予算としては実績並みとして取っていた。それ以外にもこの特例の予算については緊急やむを得ない場合の事例もある。予算立てとしてはあるが実際、この額を算出にあたり今までの実績というのを踏まえた形で額は算出している実態がある。ただ、居宅のショートステイのほうは、年々、前は2事業所を基準該当として認めていたが、それが1か所に減り、その実績もだんだん落ちてきていると実態である。利用者のご都合というの、利用というの減ってきているので、額としてはだんだん予算額は減ってくるのかなとは考えている。介護サービス計画のほうは、事業者のほうも一般のほうに変更になっているので、実態としては緊急用という形で残ってきているのかなとは考えている。算出のときには、ちょっとその分で算出しておりますが、実際にはもっと減ってくるものと考えている。

しいな質問 4 ご高齢者が施設に入居して身体拘束をされている現状について介護老人保健施設12件、有料老人ホームでは56件の身体拘束が行われている現状について。本区ではぜひ積極的にこういったところの施設を把握して、指導してほしい。

答弁 身体拘束というのは一応廃止ということで、いろいろ実地指導等ではそういうところは見させていただいていますので、なるべく減るような形で指導させていただきたいと考えております。